

嬉野市事業者向け脱炭素セミナー(初級編)

～求められる脱炭素経営～

2026年2月10日(火)

NTTビジネスソリューションズ株式会社

GX推進室 田中 吉隆

アジェンダ

1. 加速する温暖化・災害の多発化
2. 温暖化対策に向けた機運の高まり
3. 脱炭素経営に取り組む必要性・メリット
4. 市内事業者でも始まっている脱炭素経営
5. 対策の取組例

1. 加速する温暖化・災害の多発化

日本における気候変動

- 気象庁は、1898年の統計開始以降、**2024年の平均気温が最も高くなった**と発表しました。
- 気温だけでなく、**猛烈な豪雨など、様々な異常気象**が日本全国で生じています。

日本



平均気温

100年で

+1.40°C



猛暑日

約100年で

3.8倍



猛烈な雨

約50年で

1.7倍

九州各地でも
毎年のように
気象災害が発生

九州の
気象災害



2020年7月豪雨災害



2025年8月豪雨災害

(出所)環境省ecojinウェブサイト

嬉野市内における主な気象災害

- 2021年8月の豪雨では、8月11日～14日の4日間で4か月分の雨が降り、塩田庁舎や茶畑などで多くの被害が発生しました。



嬉野市内における温暖化の加速

2025年を振り返ると……

平均気温

16.3℃

観測史上
2番目の暑さ

過去最高
2024年度 17.0℃

真夏日(30℃以上)

91日

観測史上
過去最高

40年前の2倍以上

猛暑日(35℃以上)

28日

観測史上
2番目の暑さ

過去最高
2024年度 39日

40年前はほぼ0日

2. 温暖化対策に向けた機運の高まり


【国際的な取組】 パリ協定

- 2015年に採択された気候変動を抑制するための国際的な枠組み
- 2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための協定



主な目標

世界的な平均気温の上昇

 産業革命以前に比べて
**2°Cより十分低く保つとともに
1.5°Cに抑える努力**を追求する

温室効果ガスの排出量

今世紀後半には、
排出量と森林などによる**吸収量**の
バランスを均衡させる
(**カーボンニュートラル**)

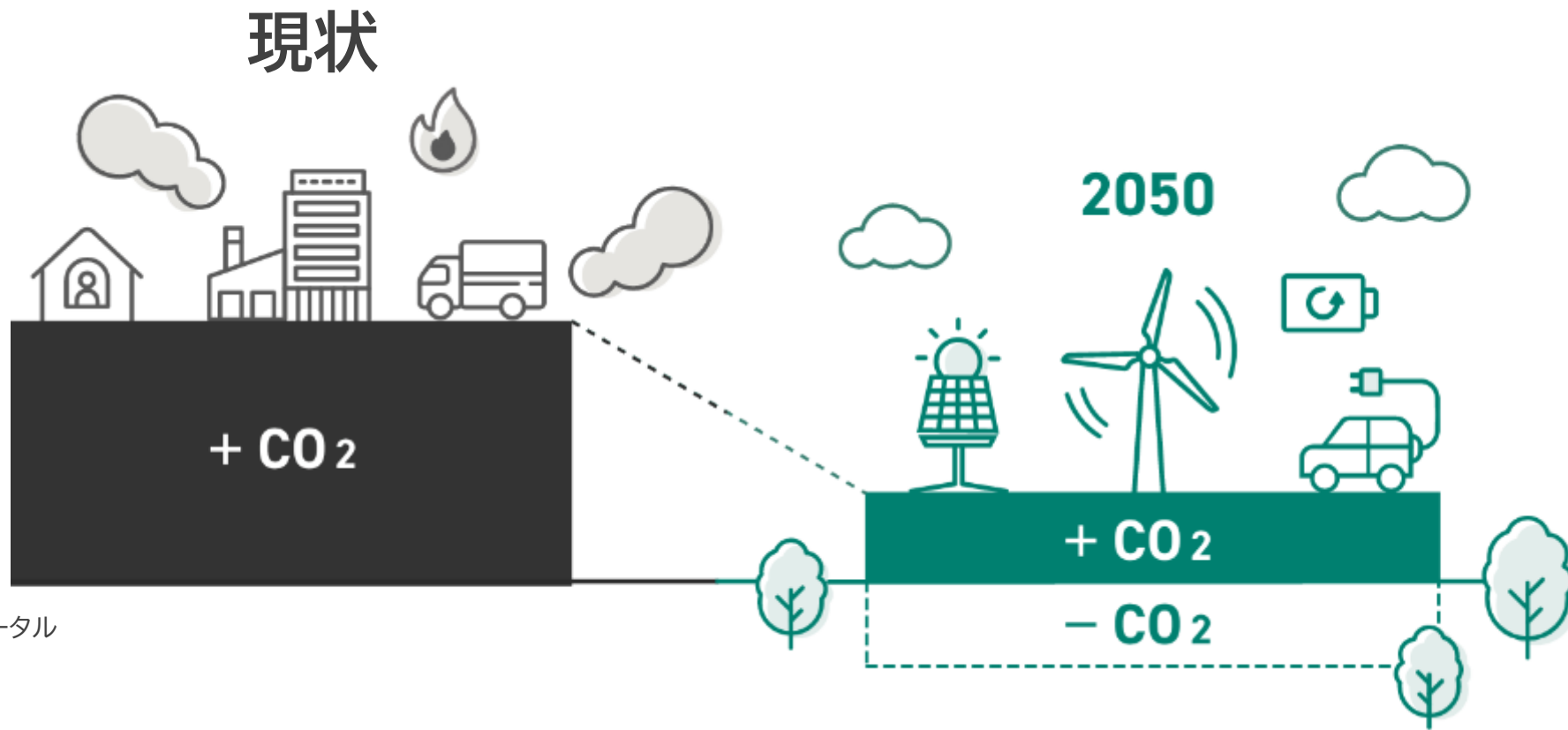
そもそも・・・「カーボンニュートラル」ってなに？



カーボンニュートラル = 温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること

- 「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「**排出量**」から森林等による「**吸収量**」を差し引き、**実質的にゼロ**にすることを意味しています。

カーボンニュートラルのイメージ図



(出所)環境省 脱炭素ポータル



【国】 2050年のカーボンニュートラルを宣言

- 2020年、菅元内閣総理大臣が、日本として2050年までに、温室効果ガスの排出を全体として実質的にゼロにする、すなわちカーボンニュートラルを目指すことを宣言



国

2050年に向けた削減計画を策定

全国各地

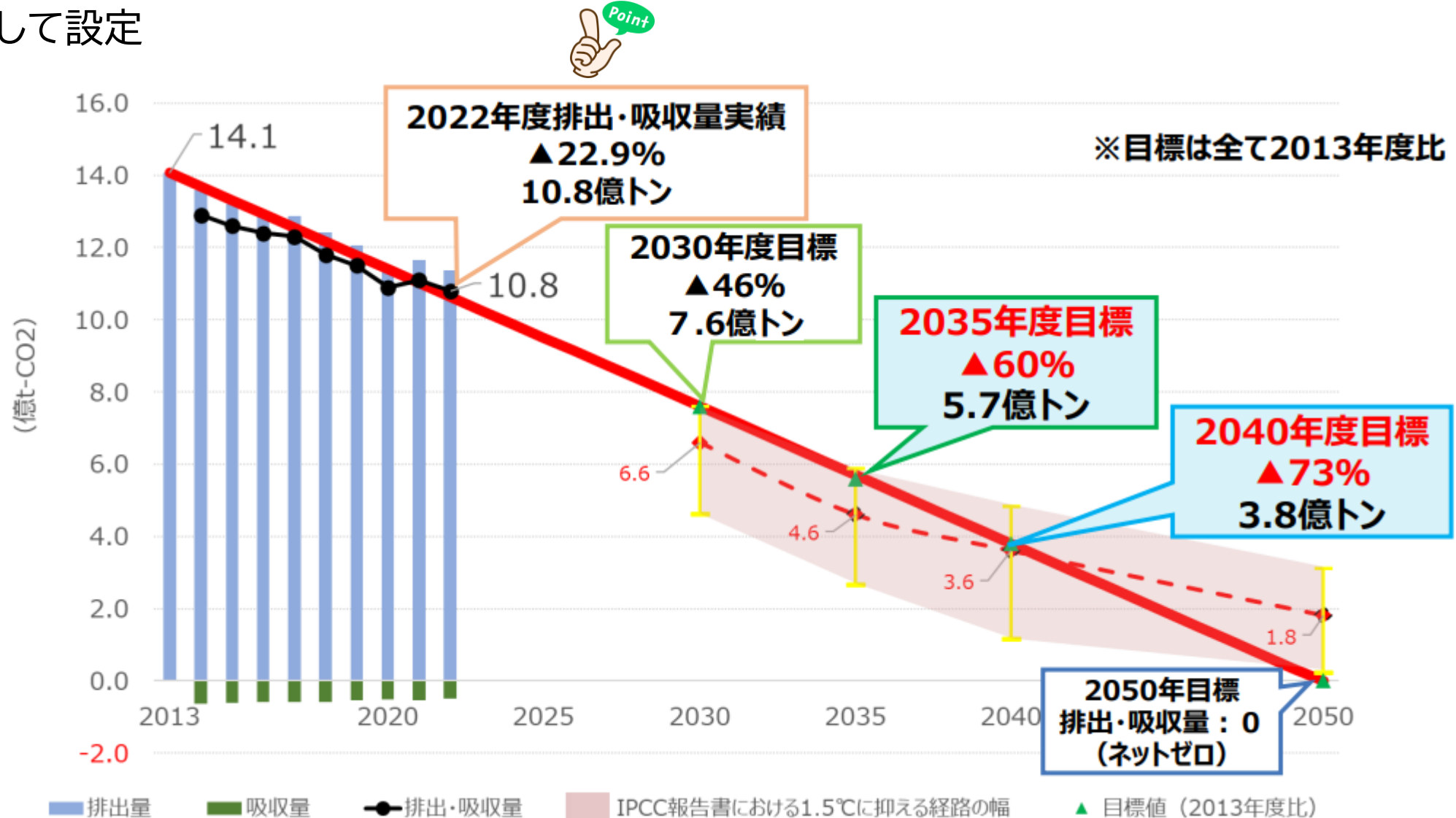
2050年のカーボンニュートラルを目指した動きが活発化

嬉野市

2050年ゼロカーボンシティを目指すことを宣言(2023年2月)

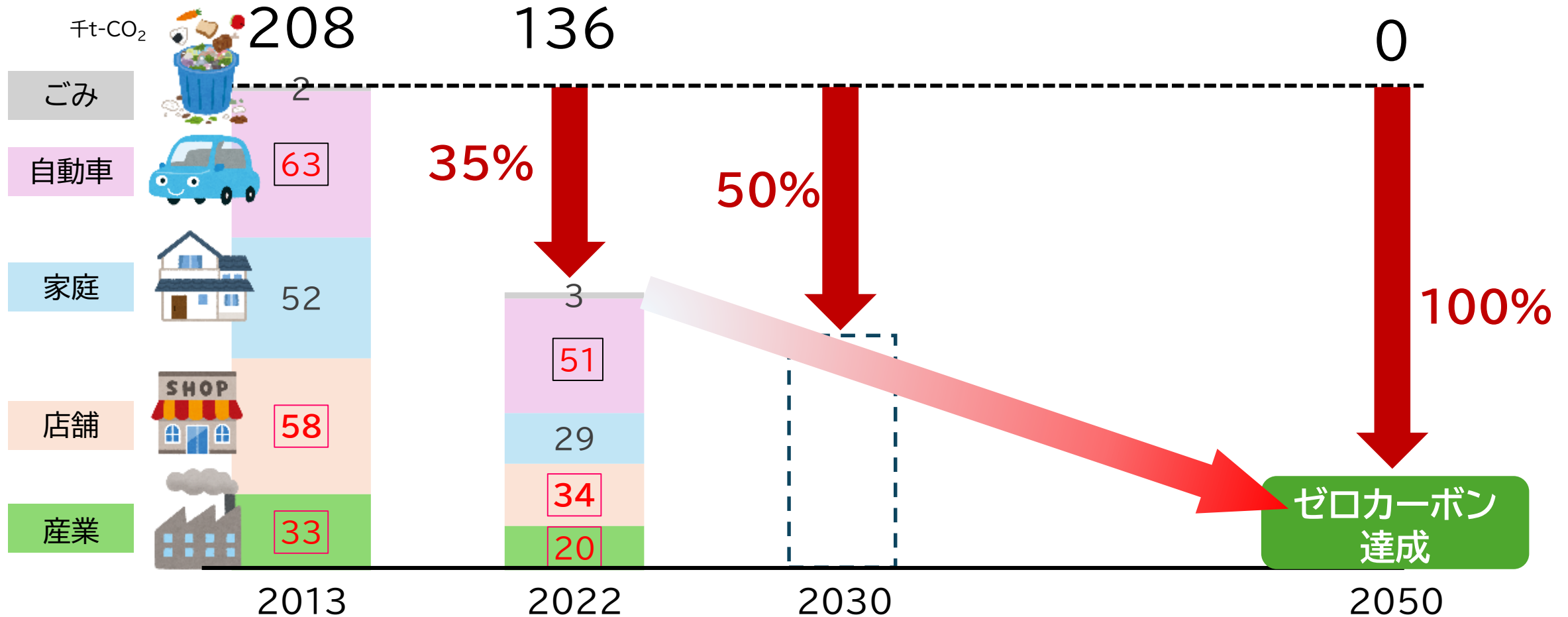
国による温暖化対策計画(削減目標を記載)

- 2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、段階的に排出量を削減する目標を設定
- 2013年度を基準として、**2030年度は46%削減**、**2035年度は60%削減**、**2040年度は73%削減**を目標として設定



嬉野市の取組状況

- 2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、嬉野市地球温暖化対策実行計画を策定
- 2013年度を基準として、2030年度は50%削減を目標として設定(直近2022年度では35%の削減)
- 事業活動における排出量が約半分を占めています。



3. 脱炭素経営に取り組む必要性・メリット

大企業を中心とした脱炭素化の動きは中小企業にも影響します

- 大企業はグローバル取引をする上で、脱炭素経営をしないと資金が集まらない
- 自社の排出削減はもちろんのこと、部品の調達・製品の使用時における排出削減を求められています

大企業は、国・投資家から**サプライチェーン全体の脱炭素化**が求められています

取引先からの要請状況
(帝国データバンク公表資料より)

8.5%

2023

- では、中小企業は??

Point 取引先(大企業)から**脱炭素経営を求められる**ケースが増加



(参考)大企業の動向(具体例)

企業名	具体的な要請事項
日立製作所	▶ すべてのサプライヤーに排出量削減目標の設定を要請
ソニーグループ	▶ SBT(科学的根拠に基づく目標)設定の要請(サプライヤーの10%)
大和ハウス	▶ SBT(科学的根拠に基づく目標)設定の要請(サプライヤーの90%)
ユニリーバ	▶ 主要サプライヤー約300社(排出量の6割)にSBT認定レベルの目標設定・進捗公開を要請
トヨタ自動車	▶ 主要サプライヤーに年▲3%の目標設定と排出データの提出を要請 ▶ 「CDPサプライチェーンプログラム」を導入し取組状況をチェック
ホンダ	▶ 主要サプライヤーに年▲4%の削減を要請
花王	▶ 「CDPサプライチェーンプログラム」を導入し、主要サプライヤーに情報開示を要請
住友重機械工業	▶ 製品の生産・物流に係る排出量の削減やサプライチェーン排出量算定の検討を要請
ルネサスエレクトロニクス	▶ ルネサスサプライヤー行動規範において削減目標の設定・報告・算定・公表等を要請

具体的に何を要請されるのか？

➤ 社会的に要請されたり、対応していく必要がある主な内容は、以下のとおりです。

- Point
- ① 電気などの使用量から求める二酸化炭素排出量の把握
 - ② 今後の削減目標の設定
 - ③ 再生可能エネルギー電気の調達

大企業からの3大要請事項

排出量の把握 (scope1,2)

- ▶ まずは排出量を把握することから(最低限の取組として求められる)



削減目標 の設定

- ▶ 排出量を把握したら次は目標の設定、そして目標達成に向けた計画策定が求められる



再エネ電気の の調達

- ▶ 電力会社(orメニュー)の切替のみで比較的すぐに対策可能(省エネと違いコストカット効果はなし)



脱炭素経営によるメリット

脱炭素経営は「先行者利益」を得る絶好のチャンス

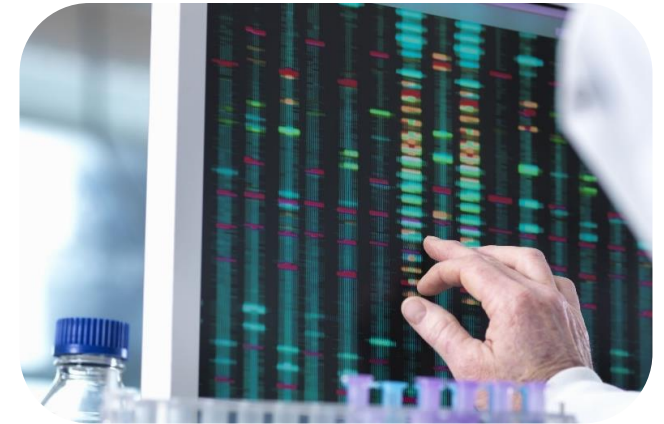
- 早く取り組む企業ほど、補助金や優遇制度を活用でき、取引先や市場での信頼を獲得できます。
- 早期開始がコスト削減やブランド価値向上に直結します。今こそ行動を起こし競争優位性を築きましょう。



新規の取引の機会



好条件での資金調達



企業価値や認知の向上



光熱費・燃料費の削減



社員のモチベーション向上



優秀な人材の確保

脱炭素経営によるメリット(例) 【取引機会への影響】

- 脱炭素経営を実施している事業者は、**取引機会の損失を回避**したり、**新規の受注を拡大**している事例が現れている。

ビジネス取引の要件化

サプライチェーンの100%カーボンニュートラル達成計画
(株Apple)

概要

- 2022年に、取引先に対して温室効果ガスの排出削減対策を取ることを要請
- 2030年までに100%の取引先に、カーボンニュートラルを達成していることを要請

320社以上のサプライヤーが2030年までに
100%再生可能電力を確約

<対応しないと取引機会の減少>

取引の新規受注

CO₂削減技術で製造受注の指名
(株井口一世)

概要

- 加工方法を改変し、材料ロスを削減
→部品ごとのCO₂排出量を40~90%削減
- 部品生産を自動化するITシステムを自社開発し、
効率の高い生産システムを構築
- 脱炭素に関心の高い欧州での輸出拡大が期待

低炭素量と高精度の製造スタイルにより、
1社指定で製造を受託するほど信頼性が向上

<ビジネス優位性の確保>

脱炭素経営によるメリット(例)【企業価値の向上・人材確保】

- 脱炭素経営を行うことで、様々なメディアに取り上げられ**知名度・認知度が向上**したりする事例がある
- **多くの優秀な人材がサステナビリティに着目**しており、脱炭素に取り組む企業を選択している事例がある

企業価値や認知度の向上

環境にやさしい事業により知名度上昇(株式会社艶金)

概要

- 昭和62年、バイオマスボイラーを導入
- 令和2年、照明のLED化
- 令和3年、再生可能エネルギー電力に10%切り替えを確約
- 令和3年、国内染色加工会社として初の中小企業版SBTの認定を取得

- コンバースとコラボした商品を販売
- 様々なメディア(新聞、BSテレビ)で紹介

<対外的なPR・企業価値の向上>

優秀な人材の確保

エシカル就活プラットフォームの活用

概要

- 気候変動や地方創成などの社会問題の取組を軸にした就活プラットフォーム「エシカル就活」が開設
- 企業の環境問題・社会問題への取組を基に企業の価値観に合致した就活が可能
- 1万5千人の学生が利用

- 50%のユーザーが上位大学の学生
- 約80%のユーザーが内定辞退せず、最終的に入社

<優秀人材の確保>

脱炭素経営によるメリット(例)【補助金活用・支援サービスの活用】

- 脱炭素経営の推進に向けて、**国・県・自治体・金融機関**などが**伴走型の支援**を推進しています。



脱炭素経営を推進している事業者を対象として

国・県・市

補助金
脱炭素経営支援
対外的PR

金融機関

支援サービス
低金利融資

事業者団体

先進取組の共有
相互の意見交換

脱炭素経営に向けた取組の進め方(3つのステップ)

初級編(本日)

中級編(3/17)

① 知る

✓ 脱炭素に関する情報収集
(本セミナーなど)

✓ 脱炭素経営の方針の検討

② 測る

✓ CO₂排出量の算定

✓ 削減するターゲットの
特定

③ 減らす

✓ 削減計画の策定

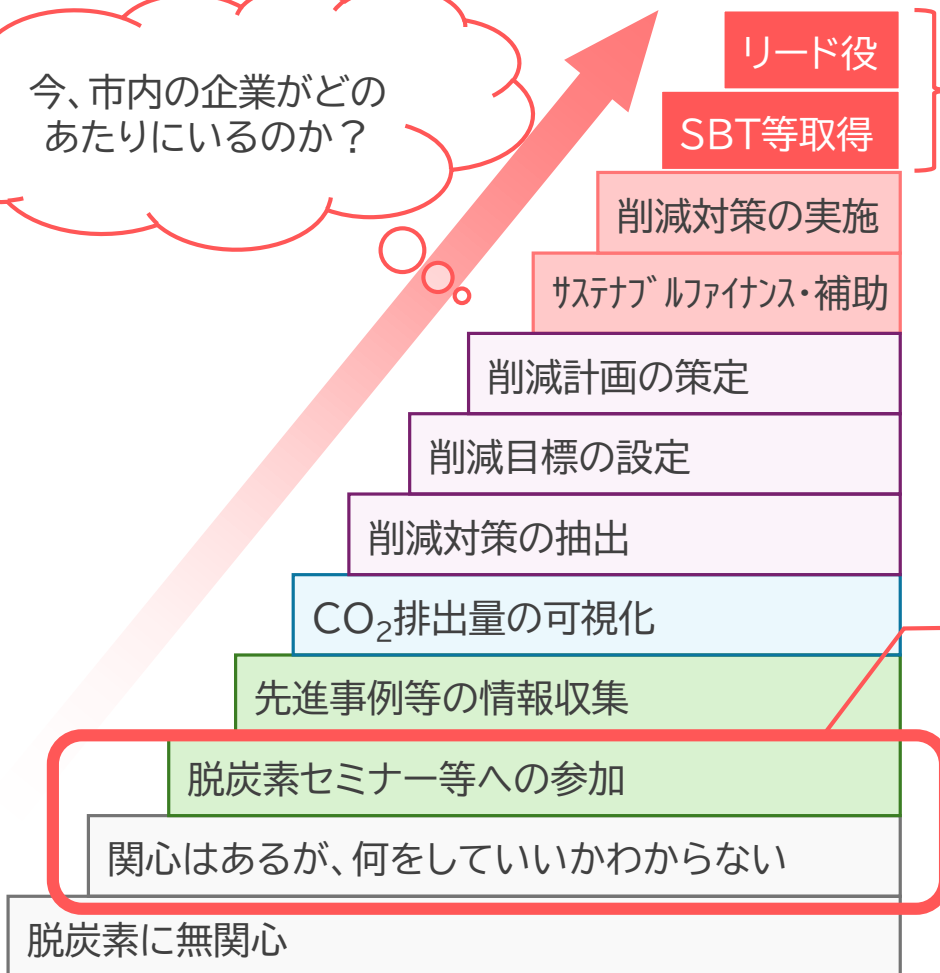
✓ 削減対策の実行

脱炭素経営のステップアップ



地域脱炭素の実現

今、市内の企業がどのあたりにいるのか？



- ・企業イメージ向上
 - ・新規ビジネス獲得
 - ・有利な金融商品の活用
- などコスト削減以外のメリットが目に見え出すフェーズ

このあたり？

関心はあり、「やらないといけない」こともある程度理解しているが、**何からやっていいかわからない、現状(排出量)を把握していない**という企業が多そう？

4. 市内事業者でも始まっている脱炭素経営



市内における脱炭素の取組事例(嬉野茶)

①製造工程で使う**電気やガス**を削減

製造工程の改善

車を**電気自動車**へ

②森林吸収による削減分を
J-クレジットとして購入
(ゼロカーボンを達成)

シールを貼って取組を可視化



市内における脱炭素の取組事例(肥前吉田焼)

①焼きものを焼く回数を減らす



②お部屋のアートとして使ったり
焼きむらがあるものは安く売る

これまで

生地

素焼き
920℃

本焼き
1300℃

今

生地

素焼き
なし

本焼き
1300℃

- 燃料代の削減
- 約30% CO₂が削減

市内の旅館



旅館の部屋の
アートに



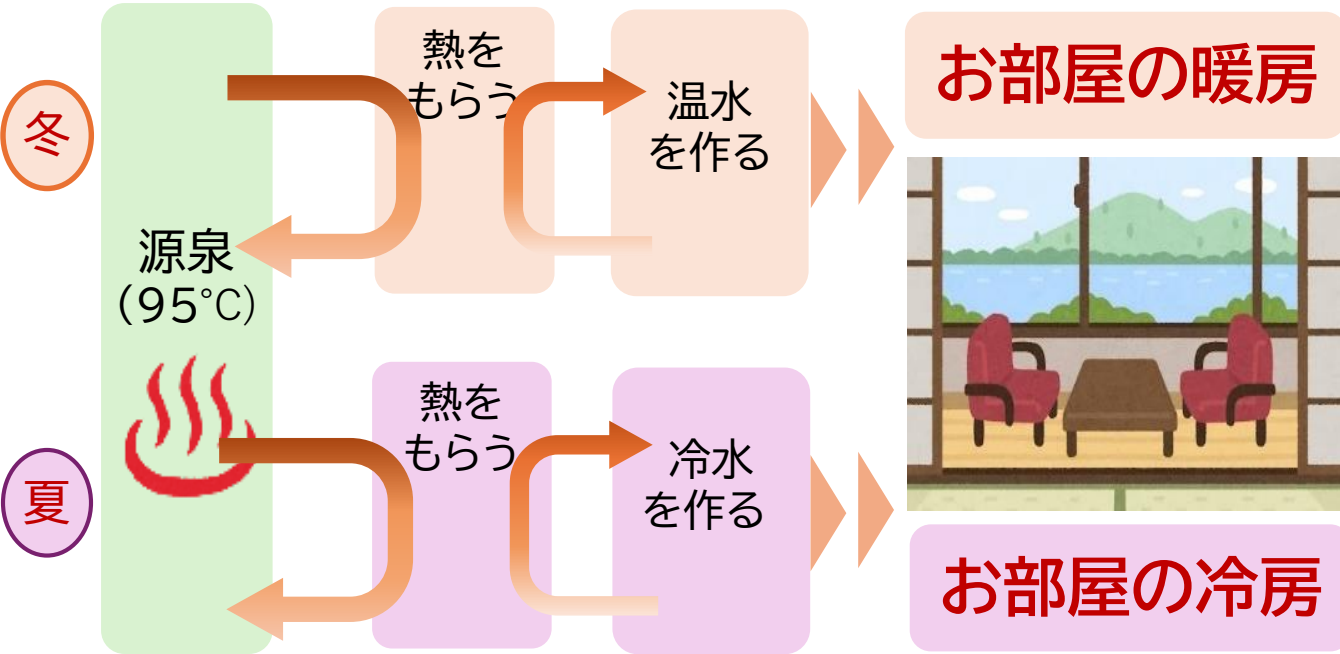
黒い部分(ほくろ)が
あるため安く販売

市内における脱炭素の取組事例(嬉野温泉)



①温泉の源泉が持つ熱を有効利用

②プラスチックではなく、缶や竹を利用



竹で作った
歯ブラシ



缶の水

市内における脱炭素の取組事例(スマートアグリ宮ノ元)

センサーを使って、温度、湿度、肥料の量を最適に自動調整します



大きなトマトが収穫！

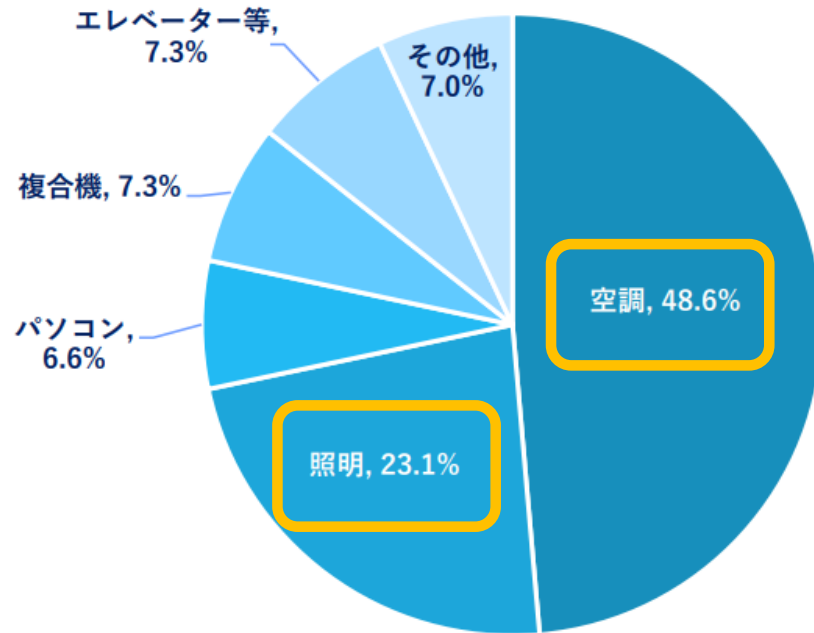


5. 対策の取組例

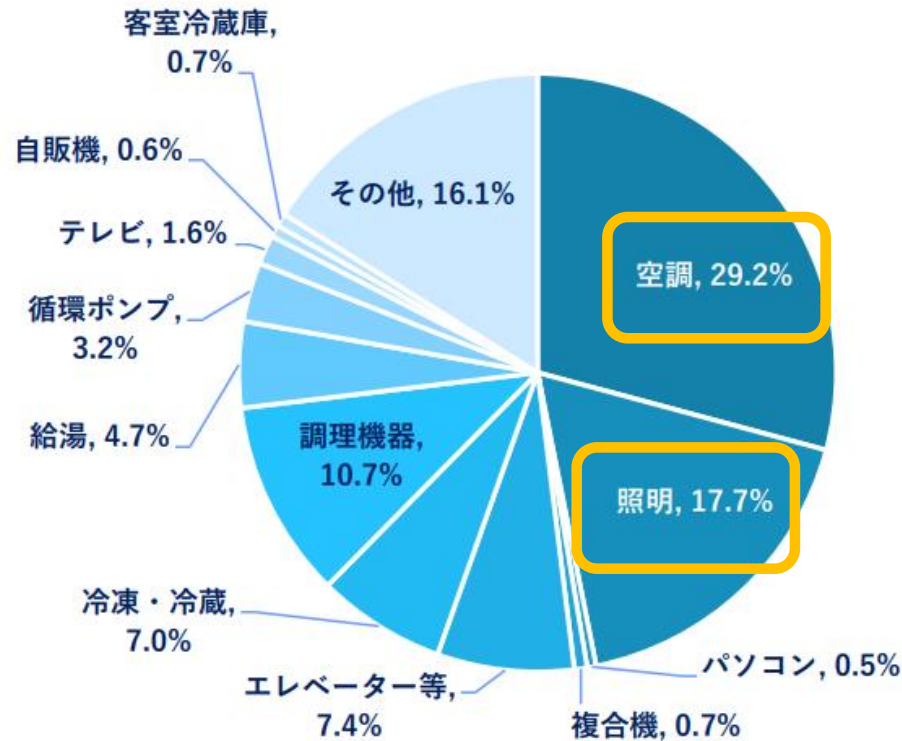
何から排出されているか？(夏場の夕方の電気使用時)

- 旅館・ホテルや一般的なオフィス・店舗では、空調と照明による排出量が多くなっています。
- 製造業では生産設備からの排出量が多くなる傾向にあります。

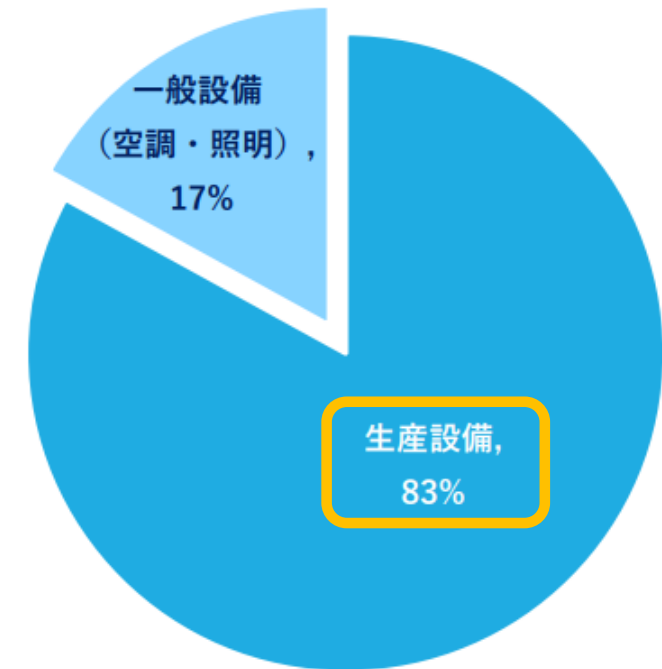
旅館・ホテル



一般的なオフィス・店舗



製造業



他に、社用車による排出量も全体に占める割合が高い傾向があります。

(参考)空調・照明の対策例

空調

- 老朽化した空調機の更新
- カーテンや日よけの活用
- フィルターの清掃(2~3か月に1回でも効果あり)
- 温度設定の見直し(気温に応じて、夕方に温度設定を上げるなど)
- 冷水・温水・冷却水の送水温度の設定見直し
- 室外機周辺の清掃(物を置かないなど)

照明

- 蛍光灯からLEDへの更新(**電気代は約50%削減**) 

- 人感センサーの活用(トイレなど)

- スイッチのオンオフ

(昼休みの消灯、残業時の部分消灯など)

- 照度に応じた間引き

